

イントロダクション： イエスのミニストリーがより知られ注目をあびるようになるにつれ反対派も勢力を増してきた。イエスはユダヤの祭りの期間エルサレムにおられ、神殿での礼拝が中心になる時期であった。そのような時に宗教指導者たちはイエスを始末しようといふことをたくらんでいた。彼らは姦淫の場で捕らえられた女を連れて来てイエスを罠にはめようとする。この話を通して神による霊と宗教的な霊の違いを見ていきたい。

1. そして、朝早く、イエスはもう一度宮にはいられた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。(8:2-4)
 - a. イエスは宮で教えている。いわゆる早朝のバイブルスタディである。そのような神聖な場に突然イエスに敵対する者たちが割り込んできた。姦淫の女を、モーセの律法の通り死刑にすべきか、とイエスに求めてきたのである。
 - b. 実際モーセの律法は、姦淫の罪は石打ちの刑で罰するように定めている。しかし6節に「彼らはイエスをためしてこう言ったのである」と書かれていることから、この宗教指導者たちは律法を守るといふよりもイエスを罠にはめようとしてこのような行動をとったことがわかる。
 - c. ここで注を加えておく。結婚とは神聖なものであり、預言者たちは偶像礼拝の罪がどれほど大きいものかを示すために姦淫のイメージをたとえに使っていた。またそれは石打ちの刑によって罰せられる数少ない罪の一つであった。
 - d. この宗教指導者たちによる行動は本当に聖なるものを求め、神の戒律を守ろうとするものではなかった。それはどのようなことからわかるだろうか？

2. けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のないものが、最初に彼女に石を投げなさい。」そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。(8:7-8)
 - a. 慈愛に満ちたイエスの答えは、聖書の中でも最も親しまれている聖句になっている。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」しかし、この聖句はあまりにも多く文脈を無視して使われるため、イエスがおっしゃる本当の意味が正しく理解されなかったり、罪が矮(わい)小化されがちである。
 - b. ここでイエス、またイエスの敵たちが言っている「石」とは比喩的なものではなく人を殺すための本当の石である。イエスは、「この宮の中で、バイブルスタディの最中にこの姦淫の女を殺し血を流すならそうするがよい、しかし…」とおっしゃったのである。
 - c. 宗教的、形式的な霊に従っている人からは出まかせのしるしが見られる。それは厳格さ、怒り、不親切、冷酷、律法主義的な態度である。ハリウッド映画ではしばしばそのようなタイプの霊が描かれるので私たちにもおなじみなのではないだろうか。それに対し、律法主義的ではない霊とはどのようなものだろうか。

3. 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」(8:9-11)
 - a. 今の時代にイエスが「今からは決して罪を犯してはなりません。」とおっしゃったら問題になるのではないだろうか、と私は少し気がかりである。
 - b. イエスは女を罪に定めなかったが、罪を容認したわけでもなかった。
 - c. この話ではイエスは聖書の権威を保ちつつ、神の恵みあわれみをより深く広く適用された。そのどちらをも妥協されたのではなく見事に両方を融合された。これが聖霊の証である。